

九州大学生体防御医学研究所長挨拶

九州大学生体防御医学研究所長 谷 憲三朗

本日は九州大学病院別府病院の開院、誠におめでとうございます。本病院の開院に向けて多くのご尽力を賜りました、九州大学・有川節夫総長、九州大学病院・久保千春病院長、九州大学病院・牧野直樹別府病院長、はじめご関連のスタッフの皆様に厚く御礼とお祝いを申し上げます。

本日は若干お時間を頂き、先ず九州大学生体防御医学研究所の歴史について、ご紹介をさせていただきたく存じます。本研究所は、昭和6年10月31日に九州帝国大学に内科部門として附置されました温泉治療学研究所と、昭和30年4月1日に九州大学医学部病理学教室内に設置されました医学部附属癌研究施設、とを統合し昭和57年4月1日に、設置された施設であります。その後、昭和56年4月1日に学内共同施設として開設されておりました遺伝情報実験施設を平成13年4月1日に統合・改組し、3大研究部門（ゲノム機能制御学部門、細胞機能制御学部門、個体機能制御学部門(計12研究分野)）と2センター（遺伝情報実験センター(2研究分野)、（感染防御研究センター（6研究分野））となりました。この計20部門のうち臨床系5研究分野と附属病院がこの別府地区にて臨床及び研究活動を継続いたしました。

平成16年4月1日の国立大学法人化に備えて、『現在の研究所附属病院の規模、人員では自己完結型の包括的な高度先進医療体制の整備は非常に困難であり、医学部附属病院、歯学部附属病院の特性を活かしつつ、互いの高度先進医療を発展させ、先進医療の拠点として新規、再生するために、両病院との、機能連携、統合が必要である』との理念から、平成15年10月1日には、医歯2病院と生体防御医学研究所附属病院が統合され、いわゆる「九州大学病院」となり、当別府地区に別府先進医療センターが設置されました。その後、臨床系1研究部門が馬出病院地区へ移動し、他1研究部門が休止し、臨床系3研究部門を中心に附属病院経営がなされ昨3月31日に至りました。

ご承知の様に、国立大学法人化後は、旧国立大学附属病院に対する「経営改善」の社会及び国家的要求は極めて強くなり、別府先進医療センターにおいてもその例外ではありませんでした。また、全国の国立大学研究所附属病院いわゆる附置研病院も「研究開発の前に経営ありき」の時代の要求に抗しきれず東京大学医科学研究所附属病院を除き、大学病院に統併合されて現在に至っております。当別府先進医療センターに

おきましても今後10年の計画をたてるにあたり、多くのご意見を集約し、先ずは経営改善をはかり、地域医療をさらに支援・発展させる最先端臨床病院として変貌し、次世代に備えるべきであるとの総合的判断から、今回の決断に至った次第であると理解いたしております。

生体防御医学研究所は、生体の恒常性を維持している「生体防御」研究というユニークな研究課題のもとに生命現象の本質に迫る基礎研究を展開すると共に、生体防御機構の破綻による難治性疾患の発生機序の解明と診断・治療法の確立を目指した研究を展開し、国際的にも高い評価を受けて参りました。

さらに、平成22年4月1日より、文部科学省認定「全国共同利用・共同研究拠点」としての重責を負い、国の内外に向け、社会性を有した研究活動を展開して参っております。このような立場から今後とも九州大学病院別府病院において行われます、臨床関連研究に対するご支援を全力で行わせて頂く所存でございます。

九州大学病院別府病院は10万m²の広大な敷地と世界的観光地別府を眼下に有する日本の病院には稀な立地条件に恵まれた病院であり、80年の歴史に裏打ちされた臨床及び研究実績と社会的責務を荷負った病院でもあります。今回の改組により、九州大学病院別府病院がさらに活性化され、別府のみならず九州の基幹病院として、安全・安心・先進的な医療を発展されますことを祈念し、お祝いの辞とさせていただきます。